

1-1 当別町における地域公共交通活性化・再生総合事業

当別町地域公共交通総合連携計画の目標

東西に市街地が二極化しており、また、札幌市や江別市といった都市に隣接していることなどによって、自動車への依存が非常に高い地域であるが、コミュニティバスの運行、公共交通利用促進の実施、公共交通サービスの情報提供等により、交通モードの転換を図る。

20年度事業の実施状況

1. 事業の内容

1) 当別ふれあいバスの実証運行

- 運行期間 : H20.4~H21.3
- 路線(区域) : 平日 市街地循環線ほか8系統、土休日 西当別線ほか1系統、金曜日・土曜日DRT型深夜バス
- 運行本数 : 平日86便、土休日31便(DRT1便)
- 運賃 : 町内200円均一(DRT1, 000円)
- 運行事業者 : (有)下段モータース

2) 車内情報システム

当別ふれあいバスの車内に乗継情報ディスプレイを設置(5台に導入)



3) 待合所の整備

上屋付バス停を2箇所に設置



当別町地域公共交通活性化協議会

当別町、北海道、北海道バス協会、(有)下段モータース、JR北海道、北海道医療大学、北洋交易(株)、とうべつ整形外科、道路管理者、北海道運輸局他

【事務局】当別町 企画部 企画課内 0133-23-3042

4) 利用促進策の実施

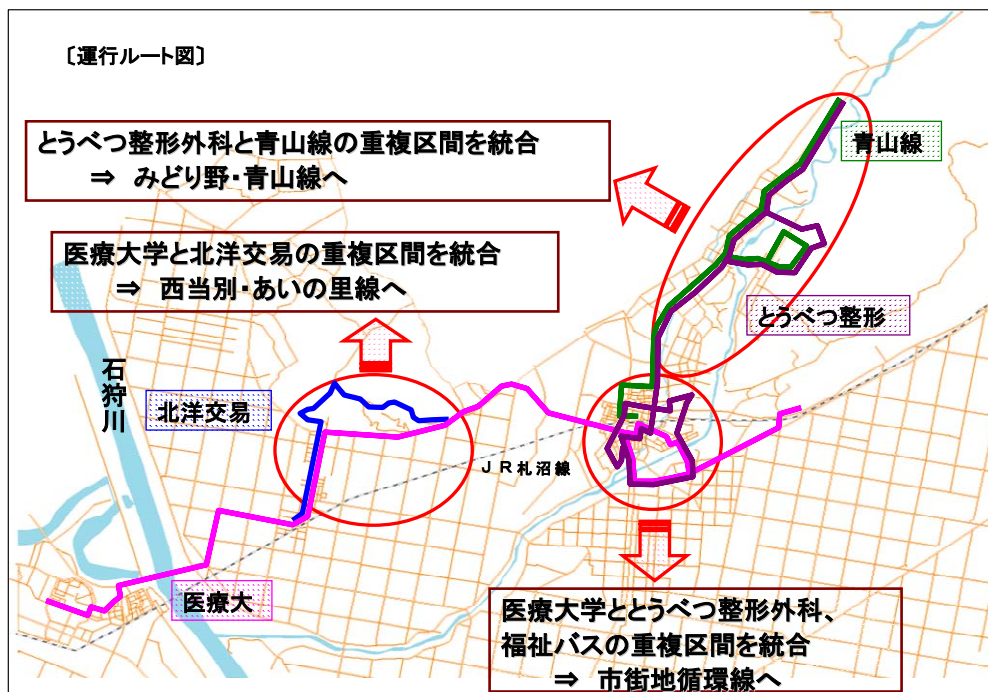
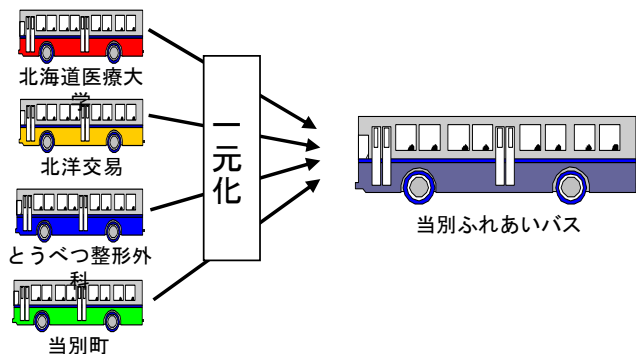
公共交通への理解と認知度の向上を図るため、事業の状況や公共交通の重要性に関する情報を発信するニュースレターを発行している。→



潜在的利用者の発掘及び公共交通に親しみを持っていただくことを目的として、利用感謝ツアーのイベントを実施している。また、アンケート調査も実施している。→

2. プロセス、創意工夫

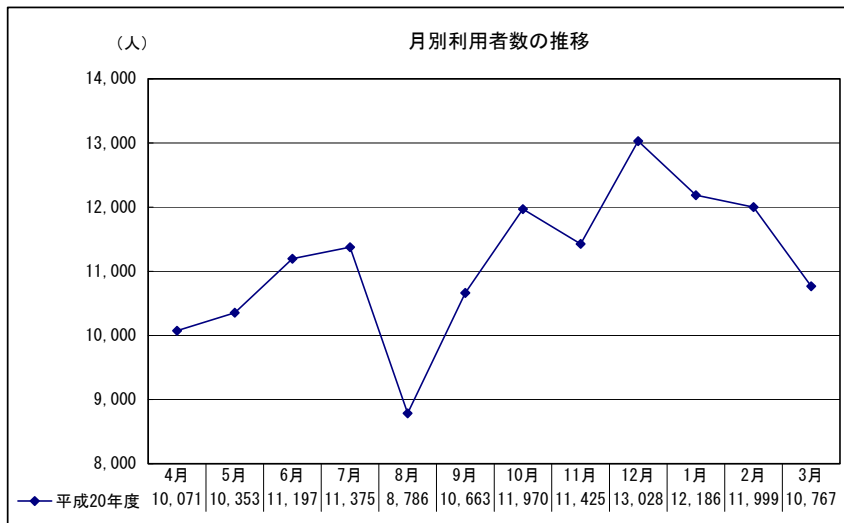
- 企業等による送迎目的の旅客を限定したバス運行と、町が運行する福祉バス及び町が補助をしている路線バスを一元化し、コミュニティバスとして路線を設定。
- 週末にJR最終便に合わせて、DRT型の深夜バスを接続運行し、JRとの連携強化を図った。
- 事業継続にあたっては、安定的な利用者数の確保が課題であり、そのため、バス及びJRの発着時刻や運行状況等を発信する情報提供システムの整備、風雨、雪を防ぐ待合所を整備し、利便性や快適性の向上を図る。
- 利用促進に向けた取組みとしては、利用感謝ツアー等のイベント、モビリティマネジメントの実施、当別ふれあいバスの理解と認知度を高めるため、交通マップの作成を始め、ニューズレターの定期発行による情報発信を実施。
- また、利用者アンケート等の調査を定期的を実施し、事業継続に向けた実施事業の見直しを図っていく。



3. 事業費等(単位:千円)

■総事業費	62,546	●運賃収入	10,698
		●地域負担	26,648
		町補助金	10,200
		事業者負担金	16,448
		●総合事業費補助金	25,200

4. 利用実績



21・22年度の事業予定

- ふれあいバス実証運行 21・22年度
- バス停及び待合所整備 21・22年度
- 公共交通情報提供システム整備 21年度
- ノンステップ車両導入 21・22年度

5. 事業実施効果

- 交通不便地域であった町内の公共交通として、利用者は全体的に増加してきている。利用ニーズの高いJR接続の改善が図られている。
- 一般家庭等からの廃食油を回収するシステムを導入し、それを燃料として運行していることを地域住民に宣伝することで、環境にも優しい地域のバスとして認知の効果が見られる。
- 利用が限定された独自の目的による運行から、不特定多数の利用者を輸送することを可能にしている。

6. 今後の課題

- 本格運行に向けた新規需要の創出及び利用者の定着
- 予約型深夜バスの利用者増加策の在り方
- 利便性、快適性を高めるバス待合所整備の在り方
- モビリティマネジメント実施効果の検討

